



建築文化賞

景観に配慮した建築物

印西市ふれあい文化館

所在地：印西市原3丁目4番地

施主：印西市

設計：(株)石本建築事務所

施工：鹿島建設(株) 東京支店 千葉営業所



撮影：松井洋子

この建設地は戦時中まで飛行場として使用された、千葉県北総地域の西、標高20～30mの平坦な北総台地にある。昭和45年に千葉北部地区新住宅市街地開発事業の許可を得、都市計画事業として造りが開始された。その後、北総開発鉄道の開業、千葉ニュータウン事業の進展にともない、北総公団線の相互乗入れにより平成6年に入居が開始され、平成7年に印西牧の原駅までの鉄道延伸が実現された。

この印西牧の原に建設された本施設は、北総台地の豊かな緑や印旛沼、手賀沼、利根川等優れた自然環境に恵まれ、印西牧の原駅から続く南北のシンボルロード上に位置し、北側の近隣公園、西側の原小学校と共に住区中央の交流の核として位置づけられている。

建築の計画は敷地の高低差を利用し、階段状広場北側のランドフォームと水をテーマとした一体的、連続的なランドスケープの形成が評価できる。しかも中庭を囲む透明な回遊動線は公民館、図書館、児童館、老人福祉センターを複合施設として連担するとともに、児童から高齢者までの学習とコミュニティの場、いわゆる多世代交流型都市の拠点として、誰もが参加できるような活性化したアクティビティを、ガラススクリーンを透してその情景を外部に発信している建築の新しいシンボル性のあり方の提案である。



また、外観は固定された建築物の表情ではなく、季節や天候、時間等によりその顔を変え、環境と共に生き、人が主役の景観を表現している。

(周郷紀男)